



期待を胸に

志高く

●令和3年度武雄高等学校入学式●

4月8日(木)、令和3年度武雄高校入学式が挙行され、多くの期待と少しの不安を抱えた236名の新入生が入学をしました。北村校長からの励ましの言葉に、新入生を代表して山田 彩香さん(一年生)が、新入生としての決意を力強く宣誓をしました。



例年美術部が描いてくれる黒板アート。今年も素晴らしい出来です!!

●始業式・新任式●

4月6日(火)に始業式・新任式が行われました。今年度は、野村教頭先生はじめ18名の新しい先生方を迎えることができました。各生徒一人一人が気持ちを新たに、新学期を頑張っていこうという気持ちになれていたようです。

●吹奏楽部中庭コンサート●

4月15日(木)、毎年恒例の吹奏楽部による中庭コンサートが行われました。1年生を始め多くの生徒が、美しくも力強い音色に聴き入っていたように思いました。飛び入りで男子生徒が踊り出すシーンも見受けられ、いい雰囲気の中での演奏会となりました。



質実剛健にして 報恩感謝の誠を尽くす



佐賀県立武雄高等学校長 北村 敬

学校長の北村 敬です。昨年度4月に武雄高等学校長に就任し、2年目を迎えました。武高第33回卒(昭和56年3月卒業)で、本校のOBでもあります。教諭として11年、教頭として2年、そして昨年度校長として5年ぶりに母校に帰ってきて、心も新たに学校運営に取り組んでいるところです。昨年度はコロナ禍での薄氷を踏むような学校運営を余儀なくされ、先生方にとっても生徒諸君にとっても我慢我慢の1年でした。今年度もコロナ禍の中での学校生活となりますが、感染防止対策を講じながら、可能な学校行事等については極力実施する方向で検討したいと考えています。

さて、本校は、明治41年に開校し、以来幾多の変遷を経ながら、113年の歴史を重ねてきた伝統を誇り、また、中高一貫教育校としても発展している進取の精神あふれる学校です。長い間受け継がれてきた「質実剛健」「報恩感謝」を校是として掲げ、「高い志と未来を切り拓く力を持ち、地域や国際社会の発展に貢献できる、人間性豊かな人材を育成する」ことを学校教育目標として掲げています。本校で学んでいる生徒たちは自分の将来のことを考え高い目標を掲げ、日々学習に励んでいます。今春の大学入試でも素晴らしい成果をあげています。勉強だけでなく、部活動やたくさんの学校行事、校外体験活動など様々な分野で活躍し、高いレベルでの「文武両道」を実践しているところです。毎年多くの有為な卒業生が巣立ち、地元佐賀県はもとより県外さらには海外において、様々な分野で活躍しています。

恵まれた教育環境の中、生徒諸君が充実した武高生活を送れますよう、本年度の学校目標を以下のとおり定め、教職員一丸となり努力をしております。

一昨年度から武雄市の全面的な協力のもと、武雄市地域創造高校生参画事業に取り組んでいます。高校生が総合的な授業等を活用して、地域が抱える課題解決の提案を行っています。今年度も地域とともにさらに魅力ある学校作りに取り組んで参ります。今後とも、本校の教育活動につきまして、皆様方の御理解と御支援をいただきますよう宜しくお願いいたします。なお、今年度も校長通信「校長室の窓から」～夢の扉～を毎週発行しますので、そちらもご笑覧ください。

校是：「質実剛健」「報恩感謝」

質実剛健とは、飾り気がなく真面目であり、かつ心身共に健康で強くたくましい様子を意味し、報恩感謝とは、今の自分があるのはたくさんの人のおかげであり、その恩に報いるような生き方をしたいという気持ちを表します。

1 学校教育目標

『高い志と未来を切り拓く力を持ち、地域や国際社会の発展に貢献できる、人間性豊かな人材を育成する。』

2 目標達成のための学校経営ビジョン

- (1) 6年間の一貫した方針のもと中高一貫教育の充実・発展に努める。
- (2) 生徒の進路目標の実現のため、自ら学び考える態度を育み、学習への意欲向上や習慣化を図り、将来を見据えた教育実践に努める。
- (3) 教育活動全体を通して、自他の存在を尊重することを基本とした指導を行い、安全・安心な学校環境づくりに努める。
- (4) 保護者・職員にとって、満足度の高い信頼される学校づくり、地域を愛し、地域から愛される学校づくりに努める。

3 地域に愛される学校となるために。

- (1) 西部地区の中高一貫高校としての使命を再認識し、保護者、地域の期待に応える。
→中高6年間を見据えた学力向上と生徒一人ひとりの人格の向上と人財としての人間力育成
- (2) 進学校として、高大接続改革に対応した受験指導力の向上を図る。
→大学入学共通テストに対応できる学力の育成と推薦・総合型選抜入試に対応するための生徒の実績づくり
- (3) 部活動の効率化と実績を上げる。中高6年間の部活動の継続と意義を伝える。
→平日2時間・休日3時間の活動時間の順守・・・効率的な練習方法と集中力の育成。